

防衛省政策会議 議事要旨

日時：平成22年4月23日（金）午前8時00分～9時05分

場所：衆議院第2議員会館1階 第1会議室

防衛省出席者：榛葉防衛副大臣、長島防衛大臣政務官、楠田防衛大臣政務官

議題：①東シナ海における中国海軍の動向について

②米国の「核態勢の見直し（NPR）」について

③その他

楠田政務官の司会により進行。

1. 議題①について、神原調査課長、辰巳事態対処課長から説明。議題②について、神原調査課長より説明。議題③について鈴木防衛政策課長より説明。

2. 意見交換

【東シナ海における中国海軍の動向について】

- 今回の中国艦艇の行動は、わが国の経済活動やEEZ内の権益確保という観点から憂慮すべき問題。中国に対して、しっかりと抗議すべき。
- 短期的な対処のみならず、外交ルートやその他の総力を結集して、長期的かつ実質的に、今回のような事案が起きないように努力していただきたい。
- 防衛省と外務省との間で、十分な連携体制を整備していただきたい。

（榛葉副大臣）

今回の事案を冷静に分析しつつ、外交ルートなどを使いしっかりと対応していきたい。

（長島政務官）

本件は軍事の問題であるとともに、外交の問題である。外交全体のバランスを考えて中国への対応、対外的公表を行っているということをご理解いただきたい。

（辰巳事態対処課長）

外務省との間では、常にやりとりをしており、適切に連絡をとっていた。

【米国の「核態勢の見直し（NPR）」について】

- 日本全体としての核管理態勢や有事における核セキュリティについて、国際的にも評価される、十分なものとしていくことが必要。

(榛葉副大臣)

核セキュリティについては、ご指摘の視点を持って取り組んでいく。

- トマホークの退役により、わが国にとっての抑止力が低下するのではないか。

(高見澤防衛政策局長)

トマホークの退役によっても、拡大抑止力を維持させるための様々な代替手段に加えて、例えば、通常兵器等からなる地域的な安全保障構造の強化も考慮されており、わが国にとっての抑止力も確保されていると認識。わが国としても、引き続き米国と緊密に協議しながら適切に対応して参りたい。

(以上)